

■SUBARU 環境保全自主取り組み計画

第6次環境ボランティアプラン（2017～2020年度）

【1】地球温暖化対策

領域	項目		2020年度までの目標・取り組み	2017年度	
				目標	
商品	燃費の向上	自動車	◆ フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る	◇ 環境エンジンへの刷新、カテゴリトップレベルの燃費性能の実現 ◇ 水平対向直噴ダウンサイジングターボエンジンの市場導入	・次期XVIに環境エンジン・CVTを搭載し、グローバル展開 ・水平対向直噴ダウンサイジングターボエンジンの先行開発（量産化検討）
	クリーンエネルギーの利用		◆ 電動車両の導入推進	◇ 2018年にプラグインハイブリッド車を主要市場に導入 ◇ 電気自動車の市場導入を目指した研究推進	・北米向けプラグインハイブリッド車の開発を完了し、認証及び量産フェイズに移行 ・電気自動車の目標性能とその達成手段を決定し、実車確認のための台車製作に着手
	道路交通改善－IT技術 （自動運転技術・予防安全技術）		◆ 先進運転支援システムの展開拡大と、自動運転技術の開発に取り組み、事故を未然に防止する技術開発を更に前進させ、事故による渋滞の防止と運転支援技術での交通流改善によるCO ₂ 削減に貢献	◇ 先進運転支援システム「EyeSight」を中心とした運転支援技術・予防安全技術の技術開発を推進し、より多くの市場に拡大展開 ◇ 2017年に高速道路限定で同一車線をキープするトラフィック・ジャム・アシスト機能を市場導入 ◇ 2020年に車線変更を含めた高速道路自動運転機能を市場導入	・トラフィック・ジャム・アシスト機能の市場導入やEyeSight拡大展開、アセスメント動向先取と開発計画への反映を中心に、高度運転支援システムの技術開発を継続的に推進 またSIP/ASV等の産官学の推進計画に沿った活動を継続的に推進
生産	生産工場	◆ 国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を削減	◇ 国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2020年度迄に2006年度比14%削減	・国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2006年度比11%削減	
		◆ 海外生産工場※からのCO ₂ 排出量の削減活動を推進	◇ 海外生産工場からのCO ₂ 排出量の中期目標を設定 継続的な削減活動を推進	・生産増・販売台数増の計画であるが、189,696t-CO ₂ を目標	
物流・販売	物流	◆ 省エネ法と同期したCO ₂ 削減への対応推進	◇ CO ₂ 排出原単位を2006年度をBMとし、毎年度▲1%低減	・CO ₂ 排出原単位を2006年度をBMとし、毎年度▲1%低減を継続	

※SIA：Subaru of Indiana Automotive, Inc.